

研究速報  
 半値巾の増大が観察されたことから、半値巾の増大が、ループにもボイドにも関係のない別の原因によるものとループとボイドの双方に共通した原因との両方の可能性が考えられる。ループの核形成に半値巾増大の原因を限定することは、ピーク温度の範囲が高すぎることから言ってもおかしい。<sup>6)7)</sup> また Sørensenらは<sup>57</sup>Coによる実験で空孔、不純物対ができてきてさらに分離する過程が半値巾の増大として現われていると主張しているが、その後の電子顕微鏡観察を行っていないので確証を欠く。

試料それぞれに焼入れ時の雰囲気異なっているが、乾燥アルゴン雰囲気でも拡がりが生じたことから、水素が直接<sup>57</sup>Feと二次欠陥との相互作用に影響しているとも考えられない。

ここで興味あるのは図 5 a. bの主ピークの左側に見られる小さなサブピークである。試料3においては主ピークの他に約0.2mm/secの位置にサブピークが現われている。このサブピークはJanotらやSørensenらも見い出していない。このサブピークは30°Cになると消滅した。このピークが試料2では生じなかった事や、出現する温度範囲から推察してループの核形成に関連のあるピークである可能性があり、今後解析精度を上げてこの新しく発見されたピークの性質を調べ

ていく予定である。

### 3. 結 論

急冷によって空孔を凍結した Al を等時焼鈍したところ、40°~80°Cの温度範囲でメスバウアースペクトルの半値巾の増大が見られたが、ループの核形成によるものとは考えにくい。急冷速度のはやい試料では30°C以下の温度範囲で消失するサブピークが発見された。むしろこのサブピークがループの核形成に関連している可能性がある。

(1975年11月8日 受理)

### 参 考 文 献

- 1) R. Maddin, and A. H. Cottrell; Phil. Mag. 46(1955) 735
- 2) 吉田 鎬; 格子欠陥と金属の機械的性質 (日本金属学会編)
- 3) C. Janot, and H. Gibert; Phil. Mag 27(1973)545
- 4) K. O. Sørensen, and R. M. J. Cotterill; Acta. Met. 22(1974)1331
- 5) Y. Shimomura, and S. Yoshida; J. Phys. Soc. 22(1967)319
- 6) Y. N. Lwin, M. Doyama and J. S. Koehler; Phys. Rev. 16(1968)787
- 7) T. Federighi and S. Ceresara; Phil. Mag., 12 (1965)1093

正 誤 表 (11月号)

頁	段	行	種 別	正	誤
429	左	↑ 2	本 文	云 う	言 う
431	右		図 3	横軸の単位はkm	ナ シ
433	左		図 4	3.8229d	3.8229a
435	右	↓ 1, 2	本 文	廃 棄 物	廃 棄 物
"	"	↑ 8, 9	"	下線は不要	1970年で20GWeであり、……
436	左	↓ 7, 15	"	廃 棄 物	廃 棄 物
"	"	↑ 3	"	なるであろう	なるのでであろう
"	右	↑ 9	"	推 定	推 計
437	右	↓ 5	"	妊 娠 初 期	妊 娠 被 期
438	左	↓ 6	"	<sup>99</sup> Tcのように	<sup>99</sup> Tcように
"	右	↓ 20	"	調 べ た	調 ら べ た
440	左	↓ 24	"	炭素化合物中	炭素化合物 <sup>14</sup> C中
468	右	↓ 5, 20	"	冶 金	冶 金
"	左	↓ 14, 16, 17	"	冶 金	冶 金
"	左	↓ 11	"	応用化学科学生	応用化科学学生